

クリシタンの母郷、外海に生まれて

田口芳五郎枢機卿(1902 年～1978 年)

里脇浅次郎枢機卿(1904 年～1996 年)

ド・ロ神父はこの地に真の信仰を植え付けるためには、良い信徒を育てる立派な母親を教育しなければならぬと考えていました。その想いは実り、救助院で学んだ後母親となった人たちの子どもや孫から多くの司祭や修道者が誕生します。

ド・ロ神父からカリス(聖杯)をいただいた松下佐吉神父、ド・ロ神父が考案した農機具や土木工具を製造していた田口鍛冶工場の息子の田口芳五郎枢機卿(大阪大司教区)、子どもの頃よくド・ロ神父に頭を撫でてもらっていた里脇浅次郎枢機卿(長崎大司教区)などが、ド・ロ神父の精神を受け継ぎ、外海は「クリシタンの母郷」呼ばれるようになったのです。